

千里国際学園 中等部・高等部

シリーズ

「世界は千里でひとつになる The World Comes Together in Senri」

第一回 千里国際学園という学校

みなさんこんにちは。

千里国際学園はこの『月刊 INFOE』にシリーズ『世界は千里でひとつになる The World Comes Together in Senri』を連載します。この連載を通じて海外子女・帰国子女の皆さんに、少しでも千里国際学園のことを知っていただければと願っています。

さて今回はその第一回として、千里国際学園とはどんな学校として設立されたかというお話をします。

千里国際学園が生まれたのは1991年4月、今から14年前です。まだまだ歴史の浅い学園とも言えますが、でも、逆の言い方をすれば、生まれたての生き生きフレッシュ学園です。

「大阪府内にそれまでなかった帰国生徒の受け入れ専門校を作ろう。」

そのような大きな社会的要請の下に作り上げられた学校ですから、帰国生徒のための様々な特別の工夫が、千里国際学園のあらゆる部分に施されています。

もし海外からの帰国が9月になったとしても心配ありません。千里国際学園では一年が春学期・秋学期・冬学期の三つの学期（各学期の長さは60日で、全部の学期が同じ長さです）に分かれていて、勉強はどの学期からでも新学期のようなスタートが切れるような工夫がされています。9月に編入して来た場合でも、そこで新学期のようなスタートを切れるわけですから、授業が先に進んでいてわからない、といった不安や遅れを感じることなく勉強を始めることが出来るわけです。

編入学は中等部1年生から高等部3年生の秋学期までの学年でも可能です。海外からいつ帰国になるかなかなか分からない皆さんのために、広く編入学の機会を設けていますので、これも心配いりません。

学期制・編入学の制度、このふたつをお話ただけでも、千里国際学園が、帰国生徒の受け入れのために設立された学校として、海外生徒のこと、帰国生徒のことを常に考えていることがわかっていただけたと思います。

勿論、海外での入試も行います。アメリカでは Los Angeles と New York で毎年行っています。

千里国際学園は、関西在住の外国人家庭の子供たちが学ぶ「大阪インターナショナルスクール」と、同一キャンパスで、合同の教育を行っています。キャンパスはまさに小さな国際社会。世界30数カ国からの帰国生徒、30数カ国の国籍の外国人生徒、そして国内一般生徒。千里国際学園と大阪インターナショナルスクールが正に一つになって生み出すインターナショナルな雰囲気。完璧な日英バイリンガル環境に学園は包まれています。

次号から、千里国際学園の様々な様子を詳しく紹介していきますので、どうぞ楽しみにしててくださいね。

校長 大迫弘和